

新型コロナウイルス感染症対策

～自粛解除に向けての「北海道モデル」の御提案

2020年5月9日 手稲山クリニック 医師 徳原正則

政府の接触機会8割減を目指した外出自粛要請は理論上一定の効果を上げると考えますが、道民の生活や経済に対するダメージは大きく、当然いつまでも続けられるものではありません。また外出自粛では家庭内での感染を防ぐことはできませんし、物の移動は制限されませんので接触感染に対する効果はやや限定的だと思われます。更に、自粛解除後感染者数が増加し再度自粛するような事態も避けなくてはなりません。

来るべき自粛要請解除を見据え、北海道は、新型コロナウイルスの感染経路に関して、

- 1) マスクをしていない感染者からの「飛沫感染」と、マスクをしていない感染者の飛沫や手指接触により汚染された物を介する「接触感染」が主体である
- 2) 診断されていない無症状や軽症状の感染者から感染が広がっている
- 3) 自分がマスクをしていても、感染者がマスクをしていなければ感染リスクがある。しかし、感染者がマスクをしていれば感染リスクは大幅に下がる

という本質を道民に対し説明し、そこから自然に導き出される『感染コントロールと社会・経済活動を両立させる対策』として、道民に向けて以下の「北海道モデル」を力強く打ち出すべきだと考えます。

1. 基本方針

- ①公共の場と人前での『全員（特別な疾患・仕事の人や乳幼児を除く）マスク着用』を最大の強さで道民に要請し、それが実現できる準備が整った上で（または実現できる準備が整った活動から優先的に）自粛解除を行う【大原則】
- ②性質上マスク着用ができず適切な代替案がとれない活動（例：水泳教室等）は感染収束まで自粛が続くので、必要に応じ手厚く援助する【例外規定】
- ③感染拡大防止のため各団体・個人が行う「マスクを着用していない人お断り」の対応（例：掲示、アナウンス等）は、やむを得ないものとして北海道が正式に認める【要請に従わない人を想定した対策】
- ④感染収束までの見通しは約4週間（潜伏期間が最長2週間であることを考慮すると新規発症者数は約2週間で収束し、無症状・軽症状の感染者が陰性化するのに約4週間程度かかると仮定）。収束が見えてきたら段階的にマスク着用要請解除（これで②の自粛が解除されていく）【具体的な見通しの提示】
- ⑤感染再拡大の兆候が出たら再度全員マスク着用要請で対応（及び②の自粛再開）【予想されるリスクへの対策】

2. 道民に対して強く推奨（道民が知るべき基本的な情報は5月1日付提案書別紙2『北海道版新型コロナウイルス対策』の内容で十分と思われる）

- ⑥首から上に触れる前・帰宅時・食事前・寝る直前にハンドソープで手洗い【接触感染対策】

3. 企業経営者・イベント運営者等に対して強く推奨（下記以外は既に施行済みの対策で十分と思われる）

- ⑦可能な範囲で3密を避け、換気し、多くの人に触れる部分を消毒
- ⑧「マスクを着用していない人お断り」の導入